



# TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO.20 R6.01.15

文責 学校長 下村 昌弘

E-Mail [shimomura-masahiro@education.saga.jp](mailto:shimomura-masahiro@education.saga.jp)



学校 HP

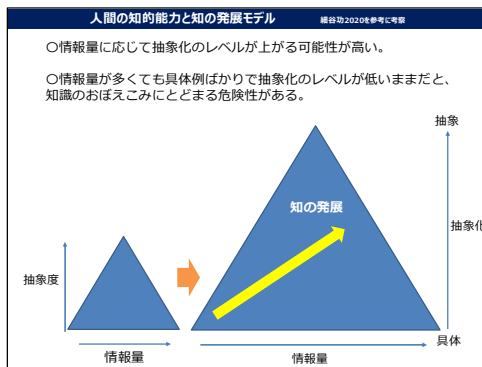
## 具体と抽象を行き来する力をこそ！ — “本” の価値がより高まる —

年末年始、自宅で過ごす時間が増えました。ついついスマホに手が伸び、気づけばあっという間に時間がたっていた、なんていうこともありがちなのではないでしょうか。

スマホが普及し情報環境は確かに豊かになりました。しかし、だからと言って幸福度が上がったのかなあと感じます。



人は SNS を通じて“社会的な成功とはこういうものだ”という漠然としたイメージを植え付けられている面があるように思います。そして知らず知らずのうちに他人の“消費”をうらやましがったり他人の“成功”を妬んだりしているのではないのでしょうか。言ってしまうと SNS に流れてくる情報に振り回されているというわけです。



「フェイスブックを使用禁止にすると幸福度が上がる」という研究もあるようです（デンマーク幸福研究所、ニューヨーク大学とスタンフォード大学の研究チーム等）。確かに情報に触れることが往々にしてストレスや怒りをもたらすことがありますから SNS には社会的な利益があるという見方は少し楽観的すぎるように思います。

そこでスマホを“具体と抽象”モデルに絡めて整理してみます。（左図は第 18 号から再掲）

“横方向”の情報量（知識）を増やすだけなら、今やスマホの時代ですから SNS やネット記事で手軽にたくさんの情報収集ができるというのも分からなくはありません。しかし、SNS やネット記事だけでは“縦方向”の抽象化（あるいは下向き具体化）の力を鍛えることは難しいのです。なぜなら SNS で使われている言葉は、個々のやりとりにおいては基本的にひと言（単語レベル）が多く、文になっているものは少ないのではないかと思います。またネットの記事もせいぜい段落レベルの構成がほとんどで章立てされているものは少数派ではないでしょうか。

その点、本は“段落”が積み重なった“節”、さらに“節”が積み重なった“章”、“章”が積み重なった“全体”によって成り立っています。そこには、全体構成や展開、具体例、主張（イタイコト）といった形で抽象度の高いレベルのものが仕込まれています。

ですから本を読むということは具体的に書かれたたくさんの内容を抽象化して主張を読み解くことや書かれている内容を自分の生活に当てはめて考えるという具体化が意識的あるいは無意識的に何回も何回も繰り返されることになるわけです。

AI の飛躍的な発展によって情報量（知識）を増やすことはすでに AI に代替されつつあります。とすると人間がやるべきことは“縦方向”の具体と抽象を行き来する営みということになるのではないのでしょうか。



こうしたことから SNS やネット記事が席卷する時代になっても、いやまさにだからこそ、本を読む価値が上がってきています。具体でとどまる人間と具体と抽象を行き来できる人間というようにヒトが二極化されてきている時代に皆さんはどちらを目指しますか。

## 自転車の交通違反の取締りが変わりました！

自転車の悪質な交通違反が後を絶たず、警察庁は反則金を課すいわゆる「青切符」による取締りを導入する方針を固めました。

対象は16歳以上。最低限の交通ルールを知っていると考えられることや原付き免許などを取得できる年齢であることなどが理由とされています。



「青切符」の対象は100余りの違反で、このうち重点的に取り締まるのは事故につながるおそれのある重大な違反行為とされています。反則金は5000円から1万2000円程度。具体的には以下のようなケースです。

- ▼信号無視 ▼一時不停止 ▼右側通行などの通行区分違反 ▼自転車の通行が禁止されている場所を通ること
- ▼例外的に歩道を通行できる場合でも徐行などをしないこと ▼ブレーキが利かない自転車に乗ること ▼携帯電話を使いながら運転すること ▼傘を差したりイヤホンをつけたりしながら運転すること など

ところで、ヘルメット着用が努力義務化されてまもなく一年。4月からは新しい意識で過ごせるよう、準備を進めたいですね。

## 新年を寿ぐ — 「福綏」に願いを込めて—

1月2日、佐賀城本丸歴史館において、本校書道科の小宮昂大先生が新年を寿ぐ大筆による揮毫をなさいました。快晴できりりと澄んだ空気の中で、はかま姿の小宮先生がダイナミックな書をご披露なさいました。



書いた文字は「福綏」。「綏」には「やすらかである」という意味があるそうです。令和6年が皆様にとってどうか安らかで幸せであることを願っています。

### 【2次出願の心得】受験に向けて+ (plus)

- 1 学部さえ間違わなければ、あとは大学に入ってから勝負  
大学名にこだわるよりもやりたい学部・分野にこだわろう。
- 2 1次の得点は参加点  
問題は2次。共通テストで取れた人は自信をもって。思うように取れなかった人は2次で挽回しよう。武雄高校生は2次に強い！
- 3 第3者のアドバイスは謙虚に  
受験は時に人を横柄にします。こういう時こそ冷静に。論語に「歳寒くして然る後に松柏のしぼむに後るを知るなり」とあります。危難の時こそ人間の真価が問われるものです。
- 4 出願は全国区で  
住めば都。日本のどこかで、いや世界のどこかであなたを待っている人がいる！
- 5 中期・後期日程まで！  
3月まで勝負は続く。現役生はこれからが一番伸びる。この修羅場こそがあなたを成長させてくれます。



「紐帯」も大切にしたい言葉の一つだ。(昌)

（閑人閑話）年末年始いくつかのうれしい知らせや言葉があった。▼卒業生のKさんから突然のメール。私の武高勤務を知り「猛烈に懐かしくなりました」。卒業以来だから二十数年ぶり。帰省の途中に立ち寄ってくれてリアル再会した▼その同級生のYさんからはふるさと納税で武高への寄付をいただいた。「2回の校長通信を楽しみにしています」ふるさと納税もそこで知ったらいい▼図らずも大学の恩師からの通信に対する感想をいただいた。当時は厳しかった先生も今や好々爺。「メモを取りながら読みました。『閑話』という言葉も大切にしたい」▼年末、墓参りに行った際、坊守さんから言われた。「『自分は人に迷惑をかけないように死にます』と言ったって最後に骨壺のふたを閉めるのは他人なのよ」▼この時期は人と人とのつながり、紐帯を感じる季節なのかもしれない。

### 【当面の主な予定（1月後半）】

- 15日（月）3年自己採点
- 20日（土）面談（3年）、進研模試（1・2年）
- 22日（月）月セミ（1・2年）
- 23日（火）人権・同和教育講演会
- 25日（木）中高合同探究発表会
- 26日（金）郷土料理作り教室（家庭科）
- 27日（土）土セミ（1・2年）
- 29日（月）月セミ（1・2年）
- 30日（火）佐賀県企業講演会